

「再就職、無職期間を経て 現在、非常勤専門職員で勤務中」

元岩手県職員

二階堂昇一さん（65歳）

平成19年3月定年退職

平成21年岩手県出身。岩手県立一関第一高等学校卒業後、昭和41年4月岩手県入庁。教育事務所、県教育委員会事務局、医療局、環境保健部、企業局、林業水産部、生活福祉部、監査委員事務局、地方振興局、出納局を務めた後、平成19年3月退職。同年4月から3年間、（社）岩手県私学協会事務局長。平成23年1月から現職。岩手県友会（県職員退職者会）事務局長や（社）岩手県各種学校専門学校連合会監事、町内会監事も兼務。趣味はソフトバレーボール、スポーツ観戦、山登り、スキー、旅行。



——定年退職直後は、どのようなスタイルで働かれていたのですか。

私は定年退職時に県職員退職予定者の人材バンクに登録し、雇用者の面接を受けて、（社）岩手県私学協会の事務局長として再就職しました。雇用形態は常勤で週5日、勤務時間は週40時間でした。

——現在はお仕事はどのようなお仕事ですか？

平成23年1月から岩手県の非常勤専門職員として、ライフプラン相談員を務めています。週5日勤務で、月曜～木曜は午前9時から午後4時、金曜は午前9時～午後3時の週29時間働いています。

——現在のお仕事に就かれた経緯は？

平成22年3月に第二の職場を退職した後は、無職の年金生活で過ごしていました。半年ほど経った頃、県のライフプラン相談員が退職するので、後任としてどうかとの話がありました。

かねてから「できれば70歳くらいまでは働きたい」と漫然と思っていたことに加え、無職で半年ほど経ち「今までの拘束から解放され自由時間が増えた満足感はあるものの、何か充実感が得られない」と感じていたことから、後任の仕事に二つ返事で引き受けることにしました。

——無職期間は、どのように過ごされていきましたか？

退職間際の3月頃、子供から急に結

婚したいとの相談があり、7月の結婚式まではその関連で振り回されました。

その他、仙台で野球観戦をしたり、東京で相撲見物をすることもありました。連休の混雑を避けた平日や気候の良い時期に、余裕をもって神戸、大阪、京都、奈良を観光できたことも良かったですね。仕事をしている時にはなかった開放感と充実感を味わうことができた反面、どこか後ろめたさを感じました。

人間関係についても、それまでは煩わしく感じていた仕事関係の交わりがなくなった反面、物足りなさを感じるようになりました。そのような中で、もう一度働ける場所を求める気持ちが高まってきました。

——定年前、退職後どうするかについて、考えたことはありましたか？

定年の10年ほど前に県主催のライフプランセミナーを受講し、定年とその後の生活を、漫然とですがイメージしてみました。

その際、試算年金額が自分が思っていた額より少ないことを知り、今後も年金額は良くならないとの話を聞きました。そこで、家計のためにも、自分の健康状態を維持するためにも、働けるうちは働こうと考えました。

——「定年後、全く仕事をしない」という選択肢はなかったのですか？

なかったですね。というのも、私には



定年後にはじめたソフトバレーボールの練習風景。週に2回参加しています

●1日のスケジュール

<仕事のある日>

6:30～8:30	起床、朝食、新聞やテレビ
8:30～9:00	通勤
9:00～16:00	仕事
16:00～16:30	通勤
16:30～19:00	団らん、入浴
19:00～20:00	夕食
20:00～22:30	テレビを見たりしてリラックスタイム

※木の19時～21時まではソフトバレーボールの練習

<仕事のない日>

8:00～9:30	起床、朝食、新聞
9:30～18:00	テレビ、買い物、小旅行など
18:00～22:00	入浴、夕食の後、テレビを見たりしてリラックスタイム

※土の9時～12時まではソフトバレーボールの練習

●1週間のスケジュール

月曜～木曜	9時～16時	勤務
金曜	9時～15時	勤務
土曜	9時～12時	ソフトバレーボールの練習
土曜の午後と日曜は余暇（買い物、小旅行など）		



妻と二人で京都旅行しました。無職期間の旅行だったので、混雑時を避け、のんびりと旅ができました



引き続きような家業も田畑もありませんでしたし、体力的にまだ現役で働く自信がありましたから。

——定年後の生活全体を振り返って「満足な点」「不満足な点」はありますか？

満足している点は「全体的に時間に余裕ができたこと」「仕事での責任が軽減されたこと」「生活リズムの維持・確保が容易にできること」等です。

不満足な点は「仲間との交流が減ったこと」「対人関係が限定的になったこと」等です。

「仕事関係者との交流が大幅に減った」ことは、人間関係のわずらわしさから解放されたという点では満足しているのですが、逆にさまざまな方面から入ってくる情報がなくなったという点で物足りなさを感じています。

——最後に、現役の地方公務員へのメッセージをお願いします。

現在、給与が減額される一方で、増税が議論されています。年金制度についても、支給開始年齢の引き上げなどが議論されようとしており不確定要素が多々ありますから、長期の生活設計が立てにくいのが現状です。

このような厳しい状況下で退職後の生活設計を十分なものにするためにも、若いうちからライフプランを真剣に考えておく必要があるのではないのでしょうか。

昨年夏、県庁職員OB会のメンバーでハイキングをしたときの写真。

岩手県庁の職員OB会では、現在970名ほどが所属しています。ハイキングのほか陶芸、釣り、ジョギング、囲碁・将棋、うまいもの会などいくつかのサークルがあります。会のイベントは年4回発行される会報で告知され、私は都合があれば参加しています。このようなイベントは、OB同士で近況報告ができる良い機会となっています

